

DERWENT-ACC-NO: 1998-354863

DERWENT-WEEK: 200171

COPYRIGHT 2005 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Support structure for flowering creepers - has
stopper piece transverse frames with number of vertical
projections between which climbing stem is
introduced with finger and held in position

PATENT-ASSIGNEE: NISHIO KAKO KK[NISHN]

PRIORITY-DATA: 1996JP-0312794 (November 8, 1996)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE
PAGES MAIN-IPC		
JP 10136796 A	May 26, 1998	N/A
008 A01G 009/12		
JP 3224017 B2	October 29, 2001	N/A
007 A01G 009/12		

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
APPL-DATE		
JP 10136796A	N/A	1996JP-0312794
November 8, 1996		
JP 3224017B2	N/A	1996JP-0312794
November 8, 1996		
JP 3224017B2	Previous Publ.	JP 10136796
N/A		

INT-CL (IPC): A01G009/12

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 10136796A

BASIC-ABSTRACT:

The structure (1) for climbing stem of flower plant (F) has vertical members

(2-4) at either side and mid section. The vertical members have projections

(2a,4a) at lower ends to be buried into the soil stored in the plant pot (P).

Number of transverse frames (5-13) are provided in interlinked

formation with
vertical members.

A number of vertical stopper piece projections (14-45) are provided adjacently as a row in the transverse frames. The stopper pieces are elastic for finger touch. The climbing stem of the plant is guided in the space between the stopper pieces with the effort of a finger and provided support.

ADVANTAGE - Eliminates need for wires and strings. Enables easy work.
Improves working efficiency. Ensures uniform pattern of support in array of plant pots.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.8/10

TITLE-TERMS: SUPPORT STRUCTURE FLOWER TRANSVERSE FRAME NUMBER
VERTICAL STOPPER
PIECE PROJECT CLIMB STEM INTRODUCING FINGER HELD POSITION

DERWENT-CLASS: P13

SECONDARY-ACC-NO:
Non-CPI Secondary Accession Numbers: N1998-277989

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-136796

(43) 公開日 平成10年(1998) 5月26日

(51) Int.Cl.⁸

A 0 1 G 9/12

識別記号

F I

A 0 1 G 9/12

A

審査請求 未請求 請求項の数 3 F D (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平8-312794

(22) 出願日 平成8年(1996)11月8日

(71) 出願人 596169521

西尾化工株式会社

愛知県西尾市行用町東屋敷61

(72) 発明者 山下 光広

愛知県西尾市行用町東屋敷61 西尾化工株式会社内

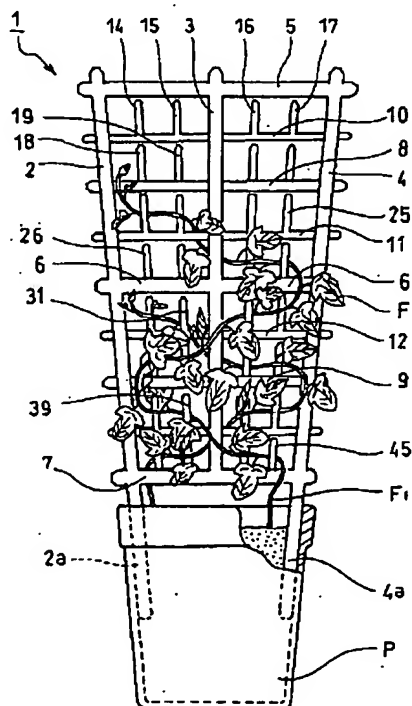
(74) 代理人 弁理士 稲葉 民安

(54) 【発明の名称】 つる草花用支持具

(57) 【要約】

【課題】 つる草花の茎を支持させる場合には、針金や紐等で固定させなければならず極めて操作性が悪い。内側に花が開花した場合には外側から観察することができない。

【解決手段】 複数の横フレーム5・・・13と、これらの横フレーム5・・・13を接続してなる接続フレーム2, 3, 4と、上記横フレーム5・・・13又は接続フレーム2, 3, 4の少なくともいずれかに上端が接続され下端側は植木鉢P内に収容された土内に突き刺される突刺し部2a, 4aと、を備え、上記横フレーム5・・・13の少なくとも何れか一つには、該横フレーム5・・・13の上面から上方に突出してなるとともに手指により容易に弾性変位する複数の係止片14・・・45が形成されてなる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数の横フレームと、これらの横フレームを接続してなる接続フレームと、上記横フレーム又は接続フレームの少なくともいずれかに上端が接続され下端側は植木鉢内に収容された土内に突き刺される突刺し部と、を備え、
上記横フレームの少なくとも何れか一つには、該横フレームの上面から上方に突出してなるとともに手指により容易に弾性変位する複数の係止片が形成されてなることを特徴とするつる草花用支持具。

【請求項2】 前記横フレームに形成された各係止片と係止片との間隔は、少なくとも指が挿入し得る間隔とされてなることを特徴とする請求項1記載のつる草花用支持具。

【請求項3】 前記突刺し部は、少なくとも左側に形成された左側突刺し部と右側に形成された右側突刺し部とを有し、該左側突刺し部と右側突刺し部とは、下方にかけて互いに徐々に接近するよう傾斜してなるとともに、該左側突刺し部の上端側中途部の外側面から該右側突刺し部の上端側中途部の外側面までの長さは、植木鉢の上端側の内径の長さよりもやや長いものとされてなることを特徴とする請求項1又は2記載のつる草花用支持具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、例えば、植木鉢に植えられた朝顔、クレマチス或いはボトス等のようなつる草花の茎を支持するために使用されるつる草花用支持具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】植木鉢に植えられた朝顔やクレマチス等のつる草花の茎を支持するための支持具としては、従来より幾つかのものが市場において販売され使用されている。例えば、図9に示す従来の支持具100は、それぞれ下端側が植木鉢Pに収容された土内に突き刺される第1乃至第4の支柱101、102、103、104と、これらの支柱101、102、103、104の上端側に取り付けられる第1のリング105と、上記各支柱101、102、103、104の中途部に取り付けられる第2のリング106と、上記各支柱101、102、103、104の下端側に取り付けられる第3のリング107とから構成されている。また、図10に示す従来の支持具150は、下端側が植木鉢Pの土内に突き刺される支柱151と、上端がこの支柱151の上端に固定されてなるとともに該支柱151の回りを旋回しながら下方にかけて徐々に径が大きくなってなる螺旋状の線材152とから構成されている。

【0003】そして、上記図9に示す従来の支持具100では、上記第1乃至第3のリング105、106、107に図示しない朝顔等のつる草花を係止させ、また、

同じように、図10に示す支持具150では、前記線材152に係止させて使用される。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来の支持具100、150では、以下に説明する種々の課題を有する。すなわち、上記支持具100、150では、つる草花の茎を上記第1乃至第3のリング105、106、107又は線材152に支持させる場合には、図示しない針金又は紐等により、茎と該第1乃至第3のリング105、106、107等とを固定させる面倒な作業が必要となり、この作業はつる草花が成長するにしたがって、その都度行わなければならない。また、つる草花が枯れて上記針金や紐が不要となった場合には、一々取り外さなければならず、特に針金を使用した場合には、捻られた該針金を元の通りに捻り直す必要があり、極めて面倒である。さらに、上記支持具100、150では、つる草花の茎が支持される第1乃至第3のリング105、106、107又は線材152が円形状又は螺旋状となされていることから、該第1乃至第3のリング105、106、107又は線材152の内側に花が開花した場合には、その花を外側に移動させなければ観察することができない。

【0005】そこで、本発明は、上述した従来の支持具100、150が有する種々の課題を解決するために提案されたものであって、つる草花の茎を支持させる作業を有効に軽減することができるとともに、例えば、朝顔やクレマチス等のように、花が開花するつる草花であっても、花を移動させることなく確実に外部から観察することができるつる草花用支持具を提供することを目的とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は、上記目的を達成するために提案されたものであって、第1の発明（請求項1記載の発明）は、複数の横フレームと、これらの横フレームを接続してなる接続フレームと、上記横フレーム又は接続フレームの少なくともいずれかに上端が接続され下端側は植木鉢内に収容された土内に突き刺される突刺し部と、を備え、上記横フレームの少なくとも何れか一つには、該横フレームの上面から上方に突出してなるとともに手指により容易に弾性変位する複数の係止片が形成されてなることを特徴とするものである。

【0007】なお、この発明に係るつる草花用支持具の材料は、合成樹脂や木又は金属等の材料により製造すれば良いが、生産コストを軽減する目的からすれば、合成樹脂により一体成形されることが望ましい。また、上記接続フレームは、上記複数の横フレームの中央において該複数の横フレームを接続しているものや、或いは該複数の横フレームの両端側において各横フレームを接続してなるものであっても良く、その接続位置や形状は特に限定されるものではない。また、つる草花の茎が支持さ

れる係止片は、少なくとも手指により容易に弾性変位することが必要であるが、上記複数の横フレームの全てから上方に突出している必要はなく、一部の横フレームの上面から上方に突出していれば良い。さらに、これらの係止片の長さ方向は、必ずしも正確に垂直とされている必要はなく多少傾斜していても良い。

【0008】また、第2の発明（請求項2記載の発明）は、前記横フレームに形成された各係止片と係止片との間隔は、少なくとも指が挿入し得る間隔とされてなることを特徴とするものである。

【0009】また、第3の発明（請求項3記載の発明）は、前記突刺し部は、少なくとも左側に形成された左側突刺し部と右側に形成された右側突刺し部とを有し、該左側突刺し部と右側突刺し部とは、下方にかけて互いに徐々に接近するよう傾斜してなるとともに、該左側突刺し部の上端側中途部の外側面から該右側突刺し部の上端側中途部の外側面までの長さは、植木鉢の上端側の内径の長さよりもやや長いものとされてなることを特徴とするものである。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、本発明に係るつる草花用支持具の実施の形態について、図面を参照しながら詳細に説明する。

【0011】このつる草花用支持具（以下、支持具と言う。）1は、合成樹脂により一体成形されてなるものであり、図1に示すように、第1乃至第3の縦フレーム2、3、4と、これら第1乃至第3の縦フレーム2、3、4と一体成形されてなる第1乃至第3の大型横フレーム5、6、7とを備えている。

【0012】上記第1の縦フレーム2は、この支持具1の左側に形成されてなるものであり、上記第3の縦フレーム4は、この支持具1の右側に成形されてなるものであって、該第1の縦フレーム2と第3の縦フレーム4とは、上端側から下端側にかけて徐々に間隔が狭められるようやや傾斜されている。また、上記第2の縦フレーム3は、上記第1の縦フレーム2と第3の縦フレーム4との間に形成されてなるものであって、この支持具1の中心であって垂直方向に形成されている。そして、これら第1及び第3の縦フレーム2、4の下端側は、本発明を構成する第1及び第2の突き刺し部2a、4aとされている。すなわち、本実施の形態に係る支持具1では、本発明を構成する突き刺し部は、全部で2つ設けられており、これら第1及び第2の突き刺し部2a、4aは、本発明を構成する接続フレームとしての上記第1乃至第3の縦フレーム2、3、4の内の第1及び第3の縦フレーム2、4の下端側に形成されている。なお、上記第1の突き刺し部2の上端側左側面から第2の突き刺し部の上端側側面までの長さは、後述するように、この支持具1が取り付けられる植木鉢Pの上端側の内径よりもやや長いものとされている。

【0013】そして、上記第1乃至第3の縦フレーム2、3、4は、上端側において前記第1の大型横フレーム5により接続されており、またこれら第1乃至第3の縦フレーム2、3、4の略中央部は、前記第2の大型横フレーム6により接続され、さらに上記第1乃至第3の縦フレーム2、3、4の下端側中途部は、前記第3の大型横フレーム7により接続されている。なお、上記第1の縦フレーム2の左側面には、これら第1乃至第3の大型横フレーム5、6、7の形成位置に対応した位置に左側突出部5a、6a、7aが形成され、また、第3の縦フレーム4の右側面には、上記第1乃至第3の大型横フレーム5、6、7の形成位置に対応した位置に右側突出部5b、6b、7bが形成されている。また、本実施の形態に係る支持具1では、上記第1乃至第3の縦フレーム2、3、4と、上記第1乃至第3の大型横フレーム5、6、7の肉厚は同一のものとされている。

【0014】また、上記第1の大型横フレーム5と第2の大型横フレーム6との間には、第1の中型横フレーム8が形成され、該第2の大型横フレーム6と、上記第3の大型横フレーム7との間には第2の中型横フレーム9が形成されている。これら第1及び第2の中型横フレーム8、9は、上記第1乃至第3の大型横フレーム5、6、7の肉厚よりもやや薄い肉厚に成形されてなるものである。なお、上記第1の縦フレーム2の左側面には、これら第1及び第2の中型横フレーム8、9の形成位置に対応した位置に左側突出部8a、9aが形成され、また、第3の縦フレーム4の右側面には、上記第1及び第2の中型横フレーム8、9の形成位置に対応した位置に右側突出部8b、9bが形成されている。

【0015】そしてさらに、上記第1の大型横フレーム5と第1の中型横フレーム8との間には、第1の小型横フレーム10が形成され、該第1の中型横フレーム8と第2の大型横フレーム6との間には、第2の小型横フレーム11が形成されている。また、この第2の大型横フレーム6と上記第2の中型横フレーム9との間には、第3の小型横フレーム12が形成され、この第2の中型横フレーム9と第3の大型横フレーム7との間には、第4の小型横フレーム13が形成されている。これら第1乃至第4の小型横フレーム10、11、12、13は、上記第1及び第2の中型横フレーム8、9の肉厚よりもやや薄い肉厚に成形されてなるものである。なお、上記第1の縦フレーム2の左側面には、これら第1乃至第4の小型横フレーム10、11、12、13の形成位置に対応した位置に左側突出部10a、11a、12a、13aが形成され、また、第3の縦フレーム4の右側面には、上記第1乃至第4の小型横フレーム10、11、12、13の形成位置に対応した位置に右側突出部10b、11b、12b、13bが形成されている。

【0016】そして、上記第1の小型横フレーム10の上面であって、上記第1の縦フレーム2と第2の縦フレ

ーム3との間には、第1及び第2の係止片14、15が形成され、同じく第1の横フレーム10の上面であって、上記第2の縦フレーム3と第3の縦フレーム4との間には、第3及び第4の係止片16、17が形成されている。また、同じように、上記第1の中型横フレーム8の上面にも、第5乃至第8の係止片18、19、20、21が、第2の小型横フレーム11の上面には、第9乃至第12の係止片22、23、24、25が、第2の大型横フレーム6の上面には、第13乃至第16の係止片26、27、28、29が、第3の小型横フレーム12の上面には、第17乃至第20の係止片30、31、32、33が、第2の中型横フレーム9の上面には第21乃至第24の係止片34、35、36、37が、第4の小型横フレーム13の上面には、第25乃至第28の係止片38、39、40、41が、第3の大型横フレーム7の上面には、第29乃至第32の係止片42、43、44、45がそれぞれ形成されている。なお、これら第1乃至第32の係止片14・・・45は、本発明を構成する係止片であるとともに、作業者又は使用者が手指で押圧操作することにより容易に弾性変位するものであり、各係止片14・・・45の上端と、該係止片14・・・45の上方に位置する大型横フレーム5、6又は中型横フレーム8、9及び小型横フレーム10、11、12、13の下端とは、僅かな空間が形成されている。また、上記各係止片（符号は省略する。）と係止片との間隔、及び、第1乃至第3の縦フレーム2、3、4と係止片との間隔は、少なくとも作業者又は使用者の指が挿入し得る間隔とされている。

【0017】以下、上述した構成に係る本発明の実施の形態に係る支持具1の使用方法について簡単に説明する。まず、この支持具1の突き刺し部2a、4aを、図5に示すように、内部に土が収容されている植木鉢Pの略中央に突き刺す。この時、上記第1及び第2の突き刺し部2a、4aを、土の表面から徐々に下方に突き刺して行くと、該支持具1を構成する上記第1の突き刺し部2の上端側左側面から第3の突き刺し部の上端側側面までの長さは、この支持具1が取り付けられる植木鉢Pの上端側の内径よりもやや長いものとされていることから、所定の長さ突き刺すと、図6に示すように、上記第1の突き刺し部2aの上端側左側面と、第2の突き刺し部4aの上端側右側面とは、植木鉢Pの上端側内周面に当接する。したがって、所定の植木鉢Pに取り付けられる場合には、上記第1及び第2の突き刺し部2a、4aの上端側左側面及び右側面により位置決めされ、複数の植木鉢Pに、この支持具1を取り付ける場合には、該支持具1の全ての高さを極めて容易に一定の高さに揃えることができる。

【0018】そして、このように植木鉢Pに対して支持具1の取付作業が終了した後に、例えば朝顔等のつる草花Fの種又は発芽したつる草花Fの植えつけを、上記支

持具1の正面側と裏面側とに行う。勿論、このつる草花Fの植えつけ作業は、上述した支持具1の取付作業に先立って行われても良い。そして、植えつけられたつる草花Fが成長した場合には、該つる草花Fの茎（つる）を、この支持具1に支持させる。この時、該つる草花Fのつるをこの支持具1に支持させる場合には、前記第1乃至第32の係止片14・・・45のいずれかを、指により該係止片（符号は省略する。）を手前側にやや弾性変位させ（湾曲させ）て、該係止片（符号は省略する。）の裏面側につるの中途部が位置するよう係止させる。すなわち、図6に示すように、本発明に係る支持具1の正面側に植えられたつる草花FのつるF₁の下端側を、該支持具1に係止させる場合には、例えば第32の係止片45を指でやや手前側に湾曲させ、該つるF₁が支持具1の正面側から該第32の係止片45と第3の縦フレーム4との間から、該第32の係止片45の背面側を回って該第32の係止片45と第31の係止片44との間を通して再びこの支持装置1の手前側に位置させて係止させ、さらに第4の小型横フレーム13の上面に形成された第26の係止片39に上記要領と同じ要領で係止させる。また、この支持具1の背面側に植えられたつる草花Fについても、上述した要領と同じ要領で上記第1乃至第32の係止片14・・・45に係止させる。なお、図6には図示されていないが、この支持具1には、第1の縦フレーム2の左側側面には、上から順に左側突出部5a、10a、8a・・・7aがそれぞれ形成され、第3の縦フレーム4の右側側面には、上から順に右側突出部5b、10b、8b・・・7bが形成されていることから、これら左側突出部5a、10a、8a・・・7a及び右側突出部5b、10b、8b・・・7bを利用してつる草花Fの茎F₁に係止させることもできる。

【0019】このように、本発明に係る支持具1を構成する前記第1乃至第32の係止片14・・・45により、つる草花Fのつるの係止作業は、単に各係止片14・・・45をやや弾性変位させ（湾曲させ）ることにより、極めて簡単に行うことができ、従来の支持具100、150のように、つるの固定を針金や紐を用いて行う必要がない。特に、この支持具1は、合成樹脂により一体成形されてなることから、極めて安価に製造することができ、さらに、平面的な形状とされてなることから、朝顔等のようなつる草花Fのように、花fを点けるものであっても、全ての花f、fが外部に露出し、従来の支持具100、150のように内側に隠れ外部から観察できない事態も有効に防止することができる。

【0020】次に、本発明の第2の実施の形態に係るつる草花用支持具50について、簡単に説明する。このつる草花用支持具（以下、支持具と言う。）50は、合成樹脂により一体成形されてなるものであって、図8に示すように、上端側が円弧状となされた接続フレーム51と、この接続フレーム51に形成された第1乃至第4の

横フレーム52, 53, 54, 55とを備えてなるものである。

【0021】上記接続フレーム51は、上述のように、上端側が円弧状となされ外周形状は略馬蹄形に成形されてものであり、上記第1乃至第4の横フレーム52, 53, 54, 55の両端は、この接続フレーム51の内周と連結されている。なお、この接続フレーム51の外周であって、上記第1乃至第4の横フレーム52, 53, 54, 55に対応した位置には、それぞれ左側突出部52a, 53a, 54a, 55aと、右側突出部52b, 53b, 54b, 55bが形成されている。

【0022】そして、上記接続フレーム51の両端であって、上記第4の横フレーム55の両端側下面には、本発明を構成する第1及び第2の突き刺し部56, 57が形成されている。この第1の突き刺し部56と第2の突き刺し部57とは、上端側から下端側にかけて徐々に互いに接近するよう傾斜してなるとともに、該第1の突き刺し部56の上端側左側面から第2の突き刺し部57の上端側左側面までの長さは、取り付けられる図示しない植木鉢の上端側内周面の内径よりもやや長いものとされている。

【0023】そして、上記第1の横フレーム52の上面には、第1乃至第5の係止片58, ……62が形成され、上記第2の横フレーム53の上面には、第6乃至第10の係止片63, ……67が形成され、第3の横フレーム54の上面には、第11乃至第15の係止片68, ……72が形成され、第4の横フレーム55の上面には、第16乃至第20の係止片73, ……77が形成されている。これら第1乃至第20の係止片58, ……77は、上記接続フレーム51よりも薄い肉厚とされ、それぞれ指で押圧することにより弾性変位する（湾曲する）ようにされている。

【0024】上述のように構成された第2の実施の形態に係る支持具50による場合であっても、前記第1の実施の形態に係る支持具1と同じように、特定の植木鉢に取り付ける場合においては、上記第1及び第2の突き刺し部56, 57の上端側外側面と該植木鉢の上端側内周面との当接により、該植木鉢からの突出長さを常に一定の長さとすることができ、また、上記第1乃至第20の係止片58, ……77により極めて容易につる草花の茎を係止させることができ、さらには、朝顔等のように花を点けるつる草花である場合には、全ての花を外側から観察することができる。

【0025】なお、上記第1及び第2の実施の形態に係る支持具1, 50では、本発明を構成する横フレーム、接続フレーム、突き刺し部及び係止片が合成樹脂により一体成形されてなるものを図示して説明したが、本発明は、これらの支持具1, 50のように、必ずしも一体成形されてなるものばかりではなく、例えば、前記第1の実施の形態に係る支持具1で説明すれば、前記接続フレ

ームとしての第1乃至第3の大型横フレーム5, 6, 7, 第1及び第2の中型横フレーム8, 9及び第1乃至第4の小型横フレーム10, 11, 12, 13のそれぞれが、第1乃至第3の縦フレーム2, 3, 4に接着又は溶着されてなるものであっても良い。また、本発明を構成する突き刺し部においても、前記第1及び第2の実施の形態に係る支持具1, 50では、第1及び第3の縦フレーム2, 4又は接続フレーム51から下方に延設されてなるものを図示して説明したが、本発明に係る突き刺し部は、最も下端側に形成された横フレームから下方に延設されてなるものであっても良い。

【0026】

【発明の効果】上述した発明の各実施の形態に係るつる草花用支持具1, 50の説明からも明かなように、本発明に係るつる草花用支持具によれば、従来の支持具のように、つる草花の茎を支持させる場合において、一々針金や紐等を使用して支持させる必要はなく、単に各係止片を指により弾性変位させることにより支持させることができるので、極めて作業性を向上させることができる。また、このつる草花用支持具によれば、従来の支持具のように不要になった場合において、針金等を取り除く作業も一切必要がない。

【0027】特に、第2の発明（請求項2記載の発明）に係るつる草花用支持具によれば、横フレームに形成された各係止片と係止片との間隔は、少なくとも指が挿入し得る間隔とされてなることから、つる草花の茎を係止片に係止させる作業は簡単となる。

【0028】また、第3の発明（請求項3記載の発明）に係るつる草花用支持具によれば、突き刺し部は、少なくとも左側に形成された左側突き刺し部と右側に形成された右側突き刺し部とを有し、該左側突き刺し部と右側突き刺し部とは、下方にかけて互いに徐々に接近するよう傾斜してなるとともに、該左側突き刺し部の上端側中途部の外側面から該右側突き刺し部の上端側中途部の外側面までの長さは、植木鉢の上端側の内径の長さよりもやや長いものとされてなることから、該植木鉢に突き刺して取り付けられる場合には、左側突き刺し部の上端側中途部の外側面と該右側突き刺し部の上端側中途部の外側面とが植木鉢の上端側内周面に当接し位置決めされるので、多数の植木鉢のそれぞれにこのつる草花用支持具を取り付ける場合には、全てのつる草花用支持具の高さを均一なものとする事ができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、本発明の第1の実施の形態に係るつる草花用支持具の正面図である。

【図2】図2は、図1に示すつる草花用支持具の側面図である。

【図3】図3は、図1に示すつる草花用支持具の平面図である。

【図4】図4は、図1に示すつる草花用支持具の底面図

である。

【図5】図5は、図1に示すつる草花用支持具を植木鉢に取り付けた状態を示す斜視図である。

【図6】図6は、図5に示すつる草花用支持具につる草花の茎を支持させた状態を一部切り欠いて示す正面図である。

【図7】図7は、開花された朝顔を図5に示すつる草花用支持具に支持させた状態を示す側面図である。

【図8】図8は、本発明の第2の実施の形態に係るつる草花用支持具の正面図である。

【図9】図9は、従来の支持具が植木鉢に取り付けられた状態を示す斜視図である。

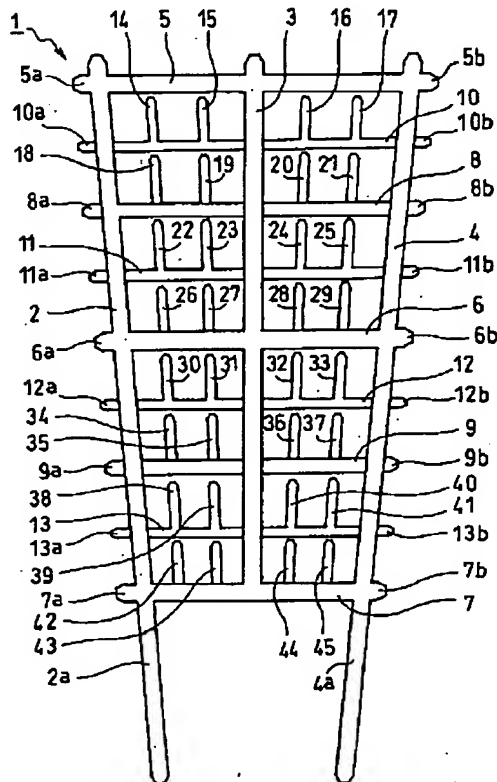
【図10】図10は、他の従来の支持具が植木鉢に取り付けられた状態を示す斜視図である。

【符号の説明】

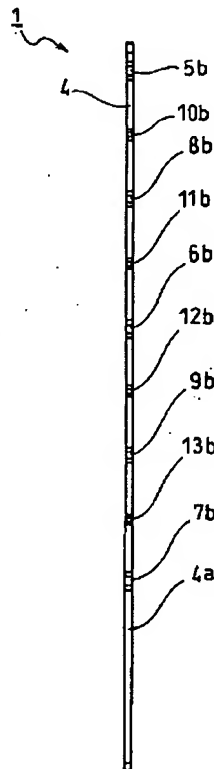
- 1 つる草花用支持具
2 第1の縦フレーム

- 2a 第1の突き刺し部
3 第2の縦フレーム
4 第3の縦フレーム
4a 第2の突き刺し部
5・・・7 第1乃至第3の大型横フレーム
8, 9 第1及び第2の中型横フレーム
10・・・13 第1乃至第4の小型横フレーム
14・・・45 第1乃至第32の係止片
50 つる草花用支持具
51 接続フレーム
52・・・55 第1乃至第4の横フレーム
56 第1の突き刺し部
57 第2の突き刺し部
58・・・77 第1乃至第20の係止片
P 植木鉢
F つる草花
f 花

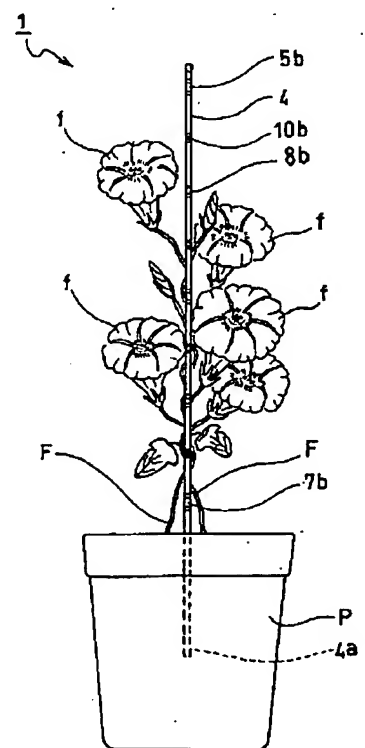
【図1】



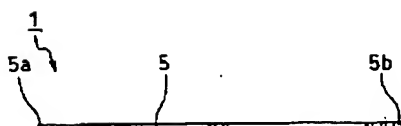
【図2】



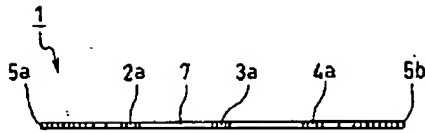
【図7】



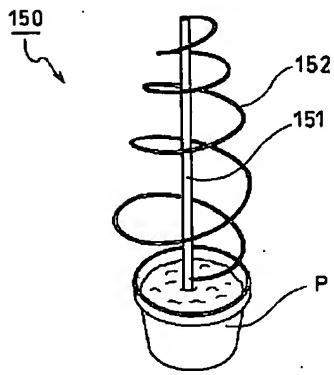
【図3】



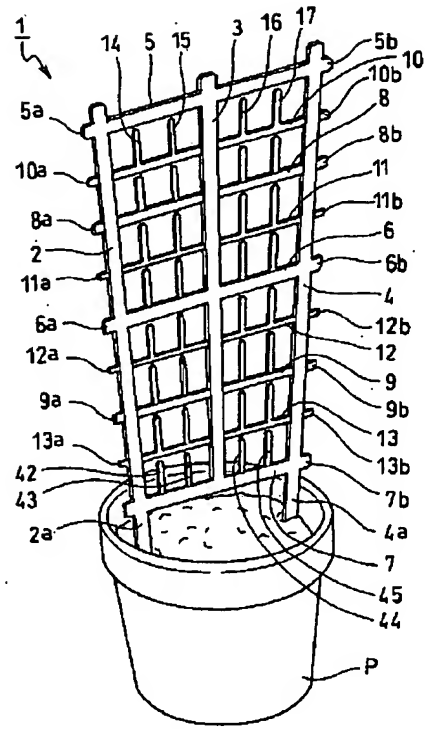
【図4】



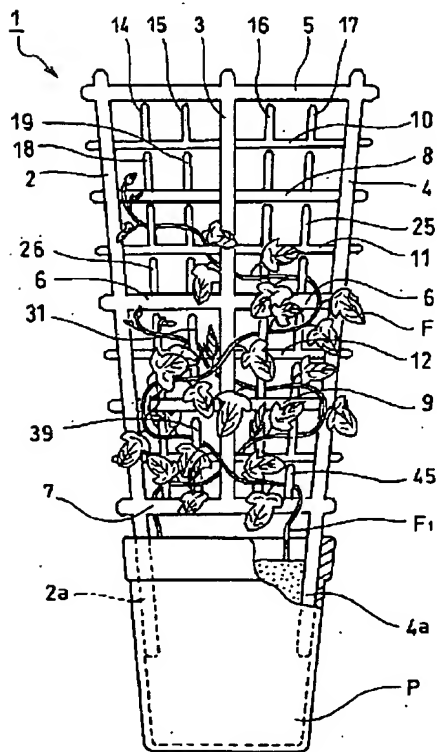
【図10】



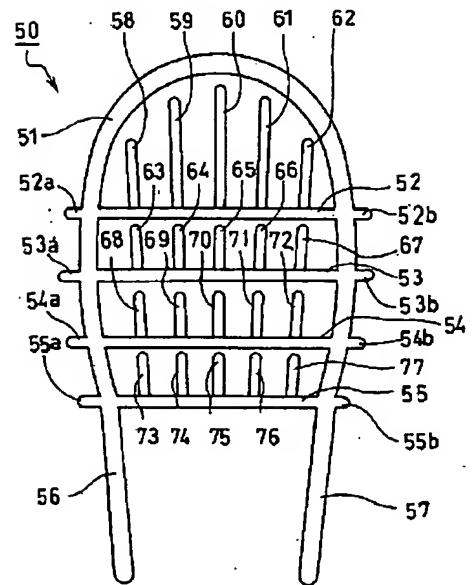
【図5】



【図6】



【図8】



【図9】

